

Urban Safari

[アーバンサファリ]

May.2019 Vol.10

Cover Story

チャーリー・ハナム

Watches transform
thoughts into dreams.

夢のある時計があります。

Vincent Gouget

ヴァンサン・グジェ / ヴァシュロン・コンスタンタン ジャパンCEO

Pierre Corthay

ピエール・コルテ / コルテ クリエイティブ・ディレクター

写真=川上 守 文=遠藤 匠
photo: Mamoru Kawakami text: Takumi Endo

腕時計と紳士靴の有力メゾンが 歩み寄る理由とは？

去る4月、東京・銀座で意外なブランドが新作展示会を合同開催した。一方は、スイスの高級時計メゾンの〈ヴァシュロン・コンスタンタン〉。もう一方はフランス屈指のシューズメゾン〈コルテ〉。果たして両社が歩み寄った理由とは？ 前者の日本人CEOを務めるヴァンサン・グジェ（写真右）は、こう語る。

「高い品質基準を設定し、卓越性とエレガンスを追求するなど、双方のメゾンは多くの価値観を共有しています。実は以前バリでも、この2つのブランドは似たようなコラボレーションイベントを開催した実績もあるのです」

ピエール・コルテ（写真左）もヴァンサン・グジェに共感する部分が多いようだ。「私たちがひとつの靴を作るためには長い時間を要し、そうしたプロセスを経て完成した靴は長く履くことができる。〈ヴァシュロン・コンスタンタン〉とは、そうしたモノ作りの姿勢においても共通点があると常々感じていました」

実は〈ヴァシュロン・コンスタンタン〉は、フランス国立芸術工芸協会とパートナーシップを結び、伝統美術工芸の継承に取り組む活動を続けている。対して〈コルテ〉のピエール・コルテは、フランス文化省から人間国宝に認定された卓越した靴職人。こうした背景も両社が繋がる理由になり得たのだろう。

「歴史というものは、“出会い”にあふれているもの。当社の歴史も、3代目のヴァシュロンが、共同経営者のコンスタンタンと出会って発展を遂げました」と語るのはヴァンサン・グジェ。腕時計も靴も着こなしを完成させるアイテム。2つのメゾンの出会いが、今後男性の装いに新たな価値観を添えるかもしれない。

〈ヴァシュロン・コンスタンタン〉

1755年スイスで創業し、一度も時計作りを中断したことがないジュネーブ最古の時計ブランド。時計に精通した顧客に向け、最高峰の職人技と仕上げを維持しながら、メゾンならではの技法や美意識が表現された逸品を製造し続ける。

〈コルテ〉

名だたるシューズメゾンのビスポーク部門で技術を磨いたピエール・コルテが、1990年にフランスのバリで創業。“驚のくちばし”と呼ばれる美しい曲線のトウや独創的な色彩表現など、芸術性を高めた靴作りに定評がある。

Contents

- 08 Cover Story チャーリー・ハナム
- 11 in Your CLOSET
- 20 月齢がわかる時計には夢やロマンがあります。
- 29 For Your Ultimate Time on Board!
FIRST CLASS AMENITY
- 30 ビーチバカンスには心が喜ぶアイテムを。
- 35 Have a Deep Experience! GREAT EXPLORE
- 37 Impressing with its Sharper Contours!
SUV COUPÉ
- 38 Gastronomic City MACAU

発行人&編集長
Publisher & Editor in Chief
藤原 晃
Akira Fujiwara
メディア事業部 部長
Director of Media Division
成井 毅
Tsuyoshi Narui

コントリビューティング・エディター&ライター
Contributing Editors & Writers

遠藤 匠
Takumi Endo

大嶋 慧子
Keiko Oshima

九島事務所
Kushima Office

古関千恵子
Chieko Koseki

柴田 充
Mitsuru Shibata

たかせ 藍沙
Aisha Takase

中村孝則
Takanori Nakamura

渡邊ひかる
Hikaru Watanabe

アートディレクター
Art Director

藤澤拓也
Takuya Fujisawa(ANAGUMA)

デザイナー
Designer

渋江裕子
Yuko Shibue(ANAGUMA)

発行
株式会社日之出出版
〒104-8505 東京都中央区八丁堀4-6-5
編集 ☎03-5543-1230
広告 ☎03-5543-1139

●本誌掲載商品の価格表示はすべて本体のみ(税抜き)の価格です。
●本誌内の記事及び写真、イラストなどの無断複写、複製、放送などを禁じます。
●本誌の編集内容に関するお問い合わせは編集部直通 ☎03-5543-1230 までお願いいたします。
なお、土・日・祝日はお休みとなっております。

日 本でも大ヒットを記録した『パシフィック・リム』などに主演し、映画ファンなら誰もが知るスター俳優となったチャーリー・ハナム。『ファンタスティック・ビースト』シリーズのエディ・レッドメインから、ベネディクト・カンバーバッチ、トム・ヒドルストンといったマーベル映画のヒーローたちまで。ハリウッド大作の中心を担うイギリス人俳優も少なくない昨今だが、チャーリー・ハナムもハリウッドで活躍し続けてきたイギリス人俳優の1人。ただし、先に挙げた3人が英国紳士然とした雰囲気の魅力にしているのに対し、ハナムの武器は、アメリカンマッシュョな役柄にも余裕ではまれる存在感。俳優デビュー後もまもなく移り住んだアメリカ西海岸の水がよほど合っていたのか、今となっては「えっ。君はイギリス人だったのかい？」と驚かれることもしばしばだそうだ。

そんな彼の持ち味が幸運な形で開花したのは、2008年から7年間にわたって出演し続けた犯罪ドラマ『サンズ・オブ・アナーキー』のとき。カリフォルニアにある架空の

町を舞台にした同作で、ハナムは犯罪に手を染める地元バイカー集団の青年ジャックスを演じた。おそらく、金髪をなびかせながら厳ついバイクを乗りこなし、組織の抗争や仲間、家族との問題に思い悩むジャックス役がはまりにはまっていたため、いまやアメリカ人と思われることが多いのだろう。演じ続けた7年の間には、放送映画批評家協会賞の主演男優賞に2度ノミネート。映画界での出世作となった『パシフィック・リム』への出演も、ジャックス役での好演を足掛かりにしていたことだった。

外見は見るからにタフで頼もしいが、内面にはどこか繊細さも。『サンズ・オブ・アナーキー』のジャックス役や『パシフィック・リム』で怪獣と戦う敏腕パイロット、ローリー役の中に見られた気質は、その後にも挑んだ役柄でもたびたび顔を出すことに。『ロスト・シティ』 失われた黄金都市』ではアマゾンの奥地に行く孤高の探検家を、『キング・アーサー』では数奇な運命を背負ったヒーローを演じ、タフな存在感と内に抱える複雑な心情を表現した。さらに、脱獄映画の金字塔をリメイクした新作『パピヨン』では生と自由を諦めない受刑囚に、名優スティーブ・マックイーンがかつて熱演した役に挑んでいる。確かに、冷静な目で見れば、無実の罪で投獄され、過酷な環境に身を置きながらも、タフに生き抜こうとする受刑囚パピヨンは、ハナムにはまる役だといえるかもしれない。とはいえ、44年前に同役を演じたのは、あのスティーブ・マックイーン。演じるうえでの葛藤は、計り知れないものだったようだ。

「僕の青春時代にとって、オリジナルの『パピヨン』はとても重要なものだった。何度も観たし、原作小説も2度以上読んでいる。実は最初、役を断ったんだ。だけど、僕はそのことについて考えるのをやめられなくなった。パピヨン役は非常に危険な領域だと思う。スティーブ・マックイーンが素晴らしい仕事をしたからね。もちろん、彼と競う気はない。彼はいつだって最もクールで偉大だ。だから僕は、僕たち自身のもので作り、自分たちを解放するために、オリジナル版など存在しないふりをした。撮影が半分以上進むまで、オリジナル版を改めて観ることもしなかったよ」

また、ハナムには大事な相棒もいた。ともに脱獄を試みる受刑者仲間を演じたラミ・マレックだ。『ボヘミアン・ラプソディ』でフレディ・マーキュリーを演じたマレックは、出演作の絶えない売れっ子。一時は出演が危ぶまれたが、彼に惚れこんだハナム自ら、電話をかけて説得したそうだ。

「ブラザー、やり抜こう！ この映画を俺たちで実現させるんだ！」とね。そのとき、僕らはまだお互いをよく知らなかったけど、でも、彼は僕を受け入れてくれたんだ」

PROFILE

1980年、イギリス生まれ。英国ドラマ『クイーン・オブ・ザ・ソング』で演じたゲイの高校生ネイサン役が絶賛され、若手俳優として頭角を現す。『ディケンズのニコラス・ニッケルビー』で映画初主演を果たした後、『コールド マウンテン』『フーリガン』『トゥモロー・ワールド』などに出演。今後の公開待機作に、ボクサーの弟と試合に向けた旅に出る『ジャングルランド(原題)』、『キング・アーサー』のガイ・リッチー監督と再びタッグを組んだ『ザ・ジェントルメン(原題)』などがある。

チャーリー・ハナム

写真 = Dan MacMedan / Contour by Getty Images 文 = 渡邊ひかる
photo : Dan MacMedan / Contour by Getty Images text : Hikaru Watanabe

To make it our own and to liberate ourselves,
I pretended the original film didn't exist.
I didn't go back and re-watch it until
about halfway through shooting.

僕たち自身のものを作り、自分たちを解放するために、
僕はオリジナル版など存在しないようなふりをした。撮影が
半分以上進むまで、オリジナル版を改めて観ることはしなかったよ。

ハナムの説得が正しかったことは、劇中の彼らを見ればよくわかる。そして、ハナムがパピヨンを演じるべきだったことも。自由を渴望するパピヨンのサバイバルと友情の物語が、胸の奥をえぐってくるからだ。まさに「やり抜いた」ハナムは、こうも語っている。「この映画には人を惹きつけるアクションやドラマが盛り込まれているけど、軸には友情の物語があるんだ。非常に厳しく凶暴な場所において、互いを思いやる人間の姿が描かれている。耐え忍ぶ男の意志の証がね」

日本での公開時期は前後するが、『パピヨン』の後はネットフリックス配信の映画『トリプル・フロンティア』に出演。南米の麻薬王から大金を強奪する元兵士を演じている。『トリプル・フロンティア』の物語の鍵を握るのも『パピヨン』と同様、運命をともにする仲間との友情だ。タフ、繊細、それに加え仲間思い。"チャーリー・ハナム"という存在が、役柄を通してどんどん広がりをを見せている気がして面白い。

【チャーリー・ハナム】

『パピヨン』



1931年、パリ。無実の罪で終身刑となったパピヨン(ハナム)は、フランス領ギアナの悪名高い流刑地へ、脱出不可能な場所で、死ぬまで過酷な強制労働を科せられることになる。それでも自由への道を諦めないパピヨンは脱獄資金を得るため、囚人仲間のドガを計画に引き入れることに。やがて2人は奇妙な友情で結ばれるが……。●6月21日より、TOHOシネマズ シャンテはかにてロードショー

© 2017 Papillon Movie Finance LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

CHARLIE HUNNAM

in Your

CLOSET*

時の深遠と向き合う〈パテック フィリップ〉の新作。

夏の気配に気もそぞろになるこの時季こそ、静かに自分と向き合いたい。〈パテック フィリップ〉が刻むのは、そんなとっておきの時間だ。年次カレンダー搭載フライバック・クロノグラフは、時の深遠について手元で語りかける。

写真=野口貴司 スタyling=中川原 寛 ヘア&メイク=TOYO、松本 恵 文=柴田 充 構成=大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: TOYO, Megumi Matsumoto(es*QUISSE)
text: Mitsuru Shibata composition: Keiko Oshima

Patek Philippe / パテック フィリップ



WATCH

パテック フィリップの “5905”

年次(アニュアル)カレンダーとは、年に1度調整するだけで大(31日)と小(30日)の月を判断し、常に正しいカレンダーを表示する機構(2月は要調整)。さらにこの時計は60秒間を任意で測るクロノグラフも装備。1年という長大な時の流れと、1分という“自分だけの連続する瞬間”を実感させてくれる。中央のクロノグラフ秒針は、常時動かすことで秒針の役割も果たす。現代的な実用性に加え、革新性においては未来まで見据えている。

腕時計、ケース径42mm、自動巻き、RGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。717万円(パテック フィリップ/パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター)、ジャケット18万円、Tシャツ8万1000円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

in Your

CLOSET*

ホワイトが映えるスポーティなアイテムで夏を迎える。

ホワイトは、気品や清廉、安らぎを醸し出す色。だが単に優雅なだけでなく、清々しいスポーツマンシップが思い浮かぶように躍動感にも富む。この夏はそんなホワイトの持つスポーティな魅力を楽しみたい。



CAR

メルセデス・ベンツの
“E 200 カブリオレ スポーツ”

POLO SHIRT

ラコステの“バリポロ”



SNEAKER

トッズの“Tストラップ スニーカー”



BAG

ヴァレクストラの
“ボクシー インヴィジブル
ミディアムトート”

D

厚底なスニーカーもこの季節は清涼感あふれるオールホワイトがいい。アッパーにはファブリック素材を用い、まるでソックスのような履き心地が味わえるとともに、幅広ストラップのベルクロどめがフィット感も高い。そこにはブランドのイニシャル“T”をあしらひ、スポーティなモード感を演出する。

スニーカー8万6000円(トッズ/トッズ・ジャパン)、パンツ3万8000円(クルチアーニ/クルチアーニ 銀座店)、クルマはCと同じ、その他はスタイリスト私物

C

夏のツーリング気分を満喫できるのがオープンエアドライブ。ソフトトップを開けた瞬間、気持ちさえも日常から解放してくれる。クーペを思わせる流麗なスタイリングにホワイトで統一した心地よい4座のインテリアは、車窓に流れる風景を優雅なヨーロッパのサマーリゾートに変えてくれる。

(メルセデス・ベンツ) “E 200 カブリオレ スポーツ”。税込み価格820万円(メルセデス・コール)

B

表の“IN”に対し裏は“VISIBLE”と記された大胆なグラフィックは、極細ドリルで革の表面に規則的に穴を開けたパンチング加工を施している。独自の染料“コバ”を用い、手作業で仕上げた緑の処理も美しい。(ヴァレクストラ)らしいイタリアンセンスとともに、ホワイトレザーに気品が薫る。

バッグ33万2000円(ヴァレクストラ/ヴァレクストラ・ジャパン)、ハット18万円(ボルサリーノ/ボルサリーノ ジャパン)、サングラスはAと同じ、クルマはCと同じ

A

ホワイトの持つスポーティさの象徴といえはポロシャツ。代表ブランドの(ラコステ)の“バリポロ”は、素材やフィット感をより現代的に見直した。しっかりとした台襟はジャケットとも好相性。あえて控えめなホワイトで仕上げたワニのワッペンや比翼仕立てが、さりげなく大人の品格を漂わせる。

ポロシャツ1万5000円(ラコステ/ラコステお客様センター)、肩にかけたカーディガン10万9000円(クルチアーニ/クルチアーニ 銀座店)、サングラス3万4000円(モスコット/モスコット トウキョウ)、クルマはCと同じ、その他はスタイリスト私物

in Your

CLOSET*

次世代のカウントダウンは手元から。

今どきのラグジュアリーとは単に高級なだけではなく、気持ちを昂揚させるような躍動感が不可欠。スポーツラグジュアリー時計の元祖が提案する新作はそんな存在感に満ちる。心揺さぶる品格は、新時代のスタートを予感させる。

Audemars Piguet / オーデマ ピゲ



WATCH

オーデマ ピゲの“CODE 11.59
バイ オーデマ ピゲ・クロノグラフ”

〈オーデマ ピゲ〉が四半世紀を経て発表した新作は、新たな1日のスタート1分前を意味する“CODE 11.59 バイ オーデマ ピゲ”と名づけられた。シンプルな丸型に、ブランドコードである八角形の中ケースを秘め、ラグのサイドには大胆なオープンワークを施す。また、見る角度により文字盤のニュアンスが変化する、独特の視覚効果も新鮮。新開発の自社キャリバーを内蔵したコンテンプラリークラシックなモデル。

腕時計、ケース径41mm、自動巻き、PGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。445万円(オーデマピゲ/オーデマピゲ ジャパン)、シャツ5万1000円(ダンヒル)、その他はスタイリスト私物

in Your

CLOSET*

休日をスマートに過ごすためのアイテム。

休日とは決して休みにあらず。慌ただしい日常のスイッチをオフし、自分らしさを取り戻す1日でもある。だからこそルースに過ごすのではなく、スマートでありたい。そんなスタイルがリラックスをもたらしてくれる。



SUNGLASSES

モスコットの“ミルゼン”



HOODIE

ジェームス パースの
“バックパイル スウェットパーカ”

PET GOODS

エルメネジルド ゼニアの
“ペッレ テスータ カラー&リード”

BAG

フルラの
“ミニショルダー”

D

休日とともに過ごす相棒にもリラックスしてほしい。〈エルメネジルド ゼニア〉のカラー&リードは、ブランドが特許を取得する、極細レザーを織り上げた革の生地を意味する“ペッレ テスータ”。密に織られたレザーは柔らかく軽量。ラグジュアリー感を伴う快適さに、相棒もどこか誇らしげに見える。

首輪4万5000円、リード4万5000円(以上エルメネジルド ゼニア/ゼニア カスタマーサービス)、パーカ、TシャツはAと同じ、サングラスはCと同じ

C

普段かけているメガネよりも遊び心が楽しめるサングラスもスマートな休日には欠かせない。1930年代に登場したクラシカルなポストンシェイプの“MILTZEN(ミルゼン)”は、NYの老舗ブランド〈モスコット〉のアイコンモデル。風格あるハンドメイドのフレームにはNY流の洗練さと温もりが息づく。

サングラス3万4000円(モスコット/モスコット トウキョウ)、パーカ、TシャツはAと同じ

B

キャッシュレス化の普及とともに、携行品も少なくなった。それでもポケットは膨らませたくない。そんなときに重宝するのがミニショルダー。〈フルラ〉のアイコンであるグリッドパターンをコーティングキャンパスにプリントし、レザーを組み合わせる。両手の空いた解放感に休日気分も高まる。

バッグ3万9000円(フルラ/フルラ ジャパン)、Tシャツ、パンツ、手に持ったパーカは Aと同じ、サングラスはCと同じ

A

最高級綿のスーピマコットンならではのしっとりとした肌触り。ピグメントと呼ばれる顔料染めで仕上げ、独特の風合いのあるカラーを実現した。着用していくにつれ、デニムのようなエイジングが楽しめるのも魅力。柔らかな日差しを映し出したような味出しのブルーは1マイルウエアにも最適。

パーカ2万9500円、Tシャツ1万9000円、パンツ3万2000円(以上ジェームス パース/ジェームス パース 青山店)、サングラスはCと同じ、その他はスタイリスト私物

James Perse / ジェームス パース

Furla / フララ

Moscot / モスコット

Ermenegildo Zegna / エルメネジルド ゼニア

Round tennis bracelet

[ラウンド・テニスブレスレット]

総計約2.5カラットのダイヤモンドを手作業で配したプラチナ製ブレスレット。主張しすぎない細身デザイン、美しさを最大限に引き出すセッティングに加え、しなやかなつけ心地もグランドスラム級の出来栄。ブレスレット236万円(ハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)、シャツ参考商品(ダンヒル)、肩にかけたカーディガン10万9000円(クルチアーニ/クルチアーニ銀座店)、その他はスタイリスト私物

HARRY WINSTON

華やぎを添えるのはいつも〈ハリー・ウィンストン〉。

ハッとしてグッとくる休日姿は
“テニスブレスレット”でさりげなく。

ダイヤモンドは確実に自分を輝かせ、パワーを与えてくれるもの。その中でも“キング・オブ・ダイヤモンド”と称される〈ハリー・ウィンストン〉のダイヤを気負わずに普段使いしてみる。そんな使い方が日常をより豊かにしてくれる。ラウンド・ダイヤモンドを連ねた細身のブレスレットをさらりと纏い、その高揚感を味わいたい。

写真=野口貴司 スタイルリング=中川原 寛 ヘア&メイク=TOYO 文=逸藤 匠 構成=大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: TOYO
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

上 質なダイヤを、さりげなく日常使いするのも大人の楽しみ。

なかでも最高品質を誇る〈ハリー・ウィンストン〉の“ラウンド・テニスブレスレット”を身につけてみてはどうだろう。まず、ジュエリーの世界で親しまれているこの“テニスブレスレット”という名称の由来が面白い。きっかけは、1970年代に活躍したプロテニス選手のクリス・エバート。彼女が1989年の全米オープンにダイヤモンドのブレスレットをつけて出場し、一躍話題に。高級ジュエリーをスポーツ中につけるその感性が、ワンランク上の日常を楽しむアイデアとして映ったのだ。日常にクラス感をもたらすお洒落として、取り入れてみる価値は大いにありそうだ。

しかも、このブレスレットは52個ものラウンド・ダイヤを極細のプラチナでセットした繊細極まりない仕上がり。つけた際のこれみよがし感はいっさいない。リッチな輝きを自然体でアピールできるうえ、その優しいつけ心地も魅力。毎日のように纏いたくなりそうだ。



FRED

憧れのヨットライフが息づく
〈フレッド〉のサングラス。

涼しげリッチな目元に
夏気分は高まるばかり。

夏気分を高めてくれるカラーは、やはり海のブルー。清涼感のある着こなしに合わせて、色使いやディテールに海を感じるサングラスをつけると、街にいても開放感が味わえる。マリンプールのレンズ越しに見える景色はいつもより爽快。海好きはもちろん夏を愛する大人につけてほしい。

写真=野口貴司 スタイルング=中川原 寛
ヘア & メイク= TOYO 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara (CaNN)
hair&make-up: TOYO text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

気

温が上昇するにつれて恋しくなるのが、“涼”を感じるアイテム。ボーダー柄やリネンの服などはその好例だが、もし目元に取り入れるなら〈フレッド〉のサングラスがいい。“フォース10”と呼ばれるコレクションにラインナップされたこの新作。特徴は、なんとといっても海を感じるモチーフ

が随所にちりばめられていること。テンブルとリムを繋ぐ特徴的なデザインは、ヨットで使われるシャックルという吊り金具がモチーフ。さらにフレームのトップラインも、ゴールドのセーリングロープで彩られている。

ブランドアイコンでもあるこの意匠は、創業者の長男が愛する妻のために作った

ヨットのケーブルを金具で繋げたブレスレットから着想を得たものだとか。そんな海への愛が感じられるサングラスは、レンズ色も清々しいマリンプール。見た目の清涼感に加え、リッチな演出効果も期待できそうだ。ちなみに、手元につけているのも同シリーズのブレスレット。2点使いすれば、爽やかさも倍増する。

FORCE 10 Sunglasses

【フォース10 サングラス】

丸みを帯びたモダンなボストンシェイプが特徴的な1本。紺地のべっ甲柄には、レンズカラーと同じ青をちりばめた。前から見るとトップラインがアクセントとなり、横顔ではブランドを特徴づけるシャックル型の意匠をアピールできる。サングラス8万3000円、ブレスレット46万4000円(以上フレッド)、ジャケット25万円、Tシャツ3万6000円(以上ジョルジオ アルマーニ/ジョルジオ アルマーニ ジャパン)

A. LANGE & SÖHNE

[A.ランゲ&ゾーネ]

正確なムーンフェイス表示と ダイナイト表示が美しく融合。

ドイツ・ザクセン王国の御用時計師が製作し、ドレスデンのゼンパー歌劇場で今も使われている五分時計。その意匠を引き継いだ大型の日付表示(アウトサイズダイヤル)を備えているのが、この“ランゲ1”。さらに時分を表示する大型のインダイヤル、秒を表示するスモールセコンド、そして指針式のパワーリザーブ表示を採用し、丸い文字盤の中に、この要素をアシンメトリックに、だが完璧なバランスで配置。抜群の視認性を実現している。そして、そのムーンフェイスモデルは、スモールセコンドのインダイヤルの中に月齢表示を融合させたもの。しかも朝の6時から18時までの昼間は月の背景がスカイブルーに。18時から朝の6時までは月の背景が、星をちりばめたダークブルーの夜空になり、昼夜表示も兼ねている。巧みなアイデアに脱帽する傑作だ。

ランゲ1・ムーンフェイス

ムーンフェイスを構成する部品数が70個にも及ぶ。ケースはこちらのWG製のほか、シルバー文字盤のPG製、ロデム文字盤のPT製がラインナップされる。パワーリザーブは72時間。ケース径38.5mm、手巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。468万円(A.ランゲ&ゾーネ)



VACHERON CONSTANTIN

[ヴァシュロン・コンスタンタン]

彫金七宝の夜空を持つ 永久カレンダーの最新作。

1755年にスイス・ジュネーブで創業。洗練されたメカニズムとシンプルなデザインで時計通を魅了する名門(ヴァシュロン・コンスタンタン)。プティック限定で発売される、超薄型でドレスシーな永久カレンダーモデルの最新作がコチラ。ミッドナイトブルー文字盤の6時位置にムーンフェイス表示を搭載。伝統的なシャンルヴェ・エナメル(彫金七宝)を使って表現した夜空が実に美しい。12時位置の月表示、3時位置の日付表示、9時位置の曜日表示と合わせていっさいの調整の必要がなく、2100年3月まで正確に月の満ち欠けを文字盤上で再現する。アリゲーターストラップの色も文字盤に合わせたダークブルーで、ピンクゴールドケースとの色合わせも完璧。また、ケースはシースルーバック仕様で、芸術的なムーブメントの姿を眺める楽しみも用意されている。

パトリモニー・エクストラフラット・ パーベチュアルカレンダー

ドレスシーで気品あふれるミッドナイトブルーの文字盤はプティック限定の証。ケース厚はわずか8.9mmで、約40時間のパワーリザーブを備える。ジュネーブ・シール取得。6月発売予定。ケース径41mm、自動巻き、18KPGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。840万円(ヴァシュロン・コンスタンタン)



HUBLLOT

[ウブロ]

メカニズムがシースルーで 文字盤側からいつでも楽しめる。

1980年に誕生した(ウブロ)は、ラバーストラップを高級時計の世界にいち早く導入したセレブ御用達のラグジュアリースポーツウォッチブランド。2005年に誕生した、セラミックやカーボンなどの先端素材を組み合わせた“ビッグ・バン”が人気だが、創業当初のDNAを継承する“クラシック・フュージョン”コレクションも、それに劣らぬ魅力を備えている。なかでも文字盤をスケルトン仕様にした“エアロ・フュージョン”シリーズは、機械式ムーブメントが文字盤側から鑑賞できるので、メカ好きの男性には特におすすめ。文字盤6時位置にムーンフェイス表示&日付表示を備えたこのモデルは、2つの表示に加えて、12時位置の月と曜日の表示もシースルー仕様。目で楽しめるフルカレンダーモデルでもある。さらにチタンケースでつけ心地も軽快だ。

エアロ・フュージョン ムーンフェイス チタニウム

ケースサイズは、写真の42mmのほか45mmタイプも用意。ハイテク素材を融合させた佇まいには、ファッションナブルでモダンな雰囲気も漂う。ケース径42mm、自動巻き、チタンケース、アリゲーターストラップ、5気圧防水。165万円(ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)



ユニークで超高精度な ムーンフェイス表示を搭載。

ドイツのすぐ隣にあるシャフハウゼンの街で1868年に創業。スイスの時計ブランドながら、ドイツ的で質実剛健な時計作りを貫いてきたのが、IWC(アイ・ダブリュー・シー)。この時計は、ブランドのパイロット・ウォッチに次ぐ、長い歴史を持つ“ポルトギーゼ・コレクション”の永久カレンダーモデルだ。ムーンフェイス機構は、ご覧のとおり文字盤12時位置にあるのだが、こちらはちょっと変わったダブル・ムーンフェイス表示タイプ。上下の月がそれぞれに北半球と南半球の月齢を同時に表示するというユニークなものとなっている。また、7~8時位置には4桁の西暦表示を備え、2100年3月を迎えるまで修正不要。その永久カレンダー機構の誤差は、なんと577.5年でわずか1日。世代から世代へと受け継がれるにふさわしい、世界最高峰の表示精度を誇る。

ポルトギーゼ・パーベチュアル・カレンダー

7日間のパワーリザーブを備えた自社製ムーブメントを搭載。ストラップは高級紳士靴ブランドとしてもお馴染みのサントニオ製のものも。その上質さはまさに折り紙付きといえるだろう。ケース径44.2mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。437万5000円(IWC)



HERMÈS

[エルメス]

月が演じる天空のドラマを 独自機構で優雅に再現。

夢あふれるエレガントなメゾンの世界観を精緻な時計で表現。過ぎていく時を楽しく演出してくれるのが(エルメス)だ。月をテーマにした2019年の最新作では、実にユニークな方法で月齢を教えてくれる。文字盤は煌びやかな夜空を思わせるアベンチュリン製で、その上下に配置されたのはマザー・オブ・パールで作られた美しい月。2つあるのは、上が南半球から、下が北半球から見た月の姿を表現しているため。そしてこの文字盤の上を、時刻、日付をそれぞれ表示する2つの可動式インダイヤルがゆっくりと一周。その日その時の月の満ち欠けがわかるという仕組みとなっている。従来のムーンフェイス表示窓でなく、文字盤全体を使って月齢を表示する、斬新でユニークなこの逸品。手につけると、(エルメス)流のロマンチックな月旅行が待っている。

アルソー ルールドゥ ラリエンヌ

写真のアベンチュリン製文字盤のほか、グレーのグラデーションラッカー仕上げのインダイヤルを持つ、メテオライト(隕石)製文字盤のタイプもあり。世界限定各100本。6月発売予定。ケース径43mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、3気圧防水。320万円(エルメス/エルメスジャパン)



実はビジネスマンのラッキーチャーム?

月齢がわかる時計には 夢やロマンがあります。

大昔から人は、星々が時間や季節の移り変わりとともにその姿を変えることに気づき、その動きを観測して農業や生活に役立ててきた。時計はこの“宇宙の動き”を機械で再現するという壮大な夢を抱いた時計師たちが作った精密機械。そしてまず、時計師たちがその動きの再現に挑戦したのが月。その結果生まれたのがムーンフェイス(月齢)表示というわけだ。つまりこの機構付きの腕時計は、そんな彼らの宇宙に対する情熱や夢、歴史を超えたロマンを感じる特別な存在。時刻だけを知らせるタイプとは違い、誰もが文字盤を見るたびにロマンチックな夢を見ることが出来る。願わくは時計の中に月を取めて、ビジネスでの“ツキ”も期待したい。

文=渋谷謙人 text=Yasuhito Shibuya

JAEGER-LECOULTRE

[ジャガー・ルクルト]

ポリッシュされた月も際立つ ブルーエナメルの輝き。

メカニズムでも職人技でも、その“究極”を追求する(ジャガー・ルクルト)。1833年以来、スイスのジュウ渓谷で時計作りを続ける名門でもある。今年には、伝統の職人技であるグラン・フー(高温焼成)エナメル技法とギョーシェ加工にフォーカス。超絶コンプリケーションモデルを筆頭に、この技術を盛りこんだスペシャルピースを開発し、限定モデルとして発表した。このモデルは中でも最もシンプルなムーンフェイスウォッチ。熟練した職人が手作業で行うエナメル技法と、ギョーシェ加工が持つ美しさをストレートに引き出している。特に目を引くのは、やはり神秘的なブルーエナメル文字盤の輝き。その落ち着いたトーンの中で、6時位置にて輝く月は高級時計らしい気品を感じさせてくれる。薄型ケースのフォルムもビジネスマンにはありがたい。

マスター・ウルトラスリム・ムーン エナメル

ポリッシュ仕上げを施した新たなムーンフェイス、エングレービングされた新カウンターを採用。自社製キャリバー・925を搭載し、70時間のパワーリザーブを得ている。世界限定100本。ケース径39mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、5気圧防水。395万円(ジャガー・ルクルト)



永久カレンダー時計の中で光る ホワイトゴールド製の美しい月。

“究極のエLEGANSと美”を追求する(ハリー・ウィンストン)。月と時計の深い関わりをどこよりも理解しているウォッチブランドでもある。複雑時計はもちろんのこと、プチサイズのレディースモデルに至るまで、ムーンフェイス機構を積極的に腕時計の中に組みこんできた。このモデルはムーンフェイス表示を6時位置に備えたもの。WG製のシンプルで美しい月が顔を覗かせる。また、この時計は12時位置に閏年表示を備えた月表示のサブダイヤルや、文字盤の左右にはブランドが得意とするレトログランド(往復運動)式の曜日表示、日付表示を備えた贅沢なパーベチュアルカレンダーモデル。情報量が多いが、指針や時分針の色を変えつつ先端だけを赤にしたり、上下2つのサブダイヤルを立体的な3D構造にするなど、様々な工夫で画期的な読みやすさを実現している。

HW オーシャン・バイレトログランド パーベチュアルカレンダー オートマティック 42mm

永久カレンダーの表示方法を新たな視点から再構築。中央にはクルド・バリ装飾が施されるなど細部も厳密に凝っている。ケース径42mm、自動巻き、18KWGケース、アリゲーターストラップ、10気圧防水。645万円(ハリー・ウィンストン/ハリー・ウィンストン クライアントインフォメーション)



CARTIER

〈カルティエ〉のスケルトンウォッチをつけると
パリの夜景を思わせる
眩いロマンに引き込まれる。

ヨーロッパ初の航空機飛行を成し遂げた飛行家アルベルト・サントス＝デュモン。その出会いから生まれた1本の時計は、空への憧れと男の情熱を今も語り継ぐ。新作では夜間飛行のロマンを美しい光に再現した。

写真＝池田佳史 スタイリング＝中川原 寛 文＝柴田 充 構成＝大嶋慧子
photo: Yoshifumi Ikeda(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaVN)
text: Mitsuru Shibata composition: Keiko Oshima



SANTOS DE CARTIER SKELETON WATCH

[サントスドゥ カルティエ スケルトン ウォッチ]

昨年アップデートを経て、よりモダンに磨きをかけた歴史あるコレクションのひとつ。〈カルティエ〉が先駆となった、ブリッジに施した数字インデックスのオープンワークや、工具不要でストラップ交換ができる“クイックスイッチ”も採用。ケースサイズ47.5×39.8mm、自動巻き、SSケース、アリゲーターストラップ、10気圧防水。予定価格275万円(カルティエ/カルティエ カスタマー サービスセンター)

夜 間飛行には、決して抗うことのできない蠱惑(こわく)的なロマンがある。機内から暗闇に瞬く星を見ていると、まるで夜という異空間に引き込まれていくような、不思議な感覚にとらわれるのだ。

「機上であって、夜があまりにも美しいと、人は思わずわれを忘れる、人はもう操縦はしない」と書いたのは、作家でパイロットのサン＝テグジュペリ。その先達であり、航空界のパイオニアの飛行家アルベルト・サントス＝デュモンもこれに大

いに賛同したに違いない。

“サントス ドゥ カルティエ”スケルトンウォッチは、空からのパリの夜景の美しさに目を奪われたであろうサントスの高揚感を再現した。オープンワークとスーパーミノバを施したブリッジは、暗所ではその姿を浮かび上がらせ、通常のスケルトンフェイスとは異なる表情を見せる。サントスは夜間の実験飛行時はプロジェクターで手元を照らすことを考えたという。そんな夜間飛行に心躍らせ、挑み続けた男に思いを馳せる逸品がここにある。



日中は美しいオープンワークが施されたスケルトンフェイスと、それを通して見える精緻なメカニズムを楽しむことができる。ADLC加工による法銀のケースもダンディズムを感じさせる

PORTUGIESE YACHT CLUB CHRONOGRAPH

[ポルトギーゼ・ヨットクラブ・クロノグラフ]

搭載するクロノグラフは、12時位置のサブダイヤルに時と分の積算針を同軸で備える。ひと目で経過時間を読み取ることができ、12時間までの積算を可能にしながらも、シンプルな基本デザインを崩さない。文字盤のカラーは、ビジネスシーンにも違和感なく馴染むホワイトと、サンレイパターンが美しいスレートカラーを揃える。ケース径43.5mm、自動巻き、SSケース、ラバーストラップ、6気圧防水。各129万5000円(以上IWC)



IWC

スポーティで品格あふれる〈IWC〉の1本は
大人を凛々しく見せるうえ
手元から潮風が薫り立つ。

マリンスポーツを楽しむ休日には、それなりの時計があると気分も高揚する。そんな相棒は武骨すぎるダイバーズウォッチや、喧騒のビーチを思わせる派手なスタイルではなく、落ち着いた大人のテイストに潮風を感じる時計がいい。
“ヨットクラブ・クロノグラフ”は、その最良にして最善の選択である。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=柴田 充 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Syoju(BOLL) styling: Kan Nakagawara(CaNN) text: Mitsuru Shibata composition: Keiko Oshima

創業150年以上を誇る〈IWC〉。 “ポルトギーゼ”はその中で最長の歴史を持つモデルだが、そのうち最もスポーティなのが“ヨットクラブ・クロノグラフ”だ。1967年に発表された、外洋航海を目的にした“ヨットクラブ”を前身に伝統を受け継ぎ、防水性能やリュウズガード、ラバーストラップといった仕様を備える。
“ポルトギーゼ”本来の洗練されたシックなイメージからすると、荒々しい海の世界に違和感を抱くかもしれない。しか

しコレクションの発祥を振り返れば、それが決して縁遠いものではないことが理解できるだろう。もともとマリン・クロノメーターに匹敵する精度を第一義に、そのスペックを備えた大型キャリアーを搭載し、誕生したからである。

それでもこの時計の魅力はヨットクラブが醸し出す格式であり、決してひけらかすことのない品格にある。さりげないスタイルに同軸クロノグラフの高性能を秘め、海という大自然に対峙する男の勇氣と意思、そして優しさが漂うのである。

HUBLOT

〈ウブロ〉と〈ベルルッティ〉の新作コラボ時計は
**風格とカリグラフィの気品が
 美意識を高めてくれる。**

時計と靴は、男にとって欠かせない嗜好品。この2つを融合したのが〈ウブロ〉。名門〈ベルルッティ〉とのコラボレーションは、4年目を迎えてより進化を遂げ、男の気品ある趣味を表現する。そして“アート・オブ・フュージョン”の志はさらなる高みへと至る。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=柴田 充 構成=大嶋慧子
 photo: Tomoo Syoju(BOLL) styling: Kan Nakagawara(Ca.NN) text: Mitsuru Shibata
 composition: Keiko Oshima



Classic Fusion Chronograph Berluti

【クラシック・フュージョン クロノグラフ ベルルッティ】

時計のベースは、“クラシック・フュージョン クロノグラフ”。文字盤とストラップに使用したヴェネチアレザーは、パターン製造、加工、カッティングから組み立てまで、すべて靴と同じ製法をとっている。さらにケースは、〈ベルルッティ〉の象徴的なシグネチャーであるスクリットが施された初の仕様となった。コールドゴールドとコールドブラウンというカラーもそれぞれ個性的。世界限定各200本。6/19(水)ウブロブティック各店にて先行発売予定。ケース径45mm、自動巻き、ヴェネチアレザー×ブラックラバーストラップ、5気圧防水。右: ブロンスケース222万円 左: チタンケース200万円(以上ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)



昨年登場したクロノグラフのホワイトモデルに、今年は3針のタイプが加わった。日本限定100本。6/19(水)ウブロブティック各店にて先行発売予定。ケース径45mm、自動巻き、チタンケース、ヴェネチアレザー×メラバーストラップ、5気圧防水。144万円(ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)

Information

最新作が揃う「The Art of Fusion-革新性とヘリテージの融合-」が、6/19(水)~25(火)に伊勢丹新宿店本館1階=ザ・ステージで開催予定。



フ

アッションの世界では、いまやコラボレーションが一大トレンドになっている。この流れを時計にいち早く取り入れたのが〈ウブロ〉だ。“アート・オブ・フュージョン(異なる素材やアイデアの融合)”という独自のブランドコンセプトに基づき、既成概念にとらわれない新たな魅力を引き出すパートナーとして2016年に選んだのが〈ベルルッティ〉だったのだ。

時計と靴という画期的なコラボレーションは、〈ベルルッティ〉を代表するヴェ

ネチアレザーをストラップに用いるばかりでなく、文字盤にも採用。素材の革新という〈ウブロ〉の面目躍如になった。その後、両ブランドの融合はさらに進化を遂げ、新作ではブラッシュド加工を施したケースにもカリグラフィをあしらったものに、より一体感を増したのである。

まるで時を刻みこんだようなスタイルは、個性的でありながら手首につけた瞬間から自然に馴染む。そこには、大切に手入れをして履きこんできた靴と同様に、男の風格と気品が漂うのだ。

色使いに心惹かれる〈ウブロ〉もある。
**屈指の人気モデルも
 日本限定なら特別感が違う。**

色によって大きく印象が変わるのも時計。だからこそ〈ウブロ〉はそのクリエイションも柱に据え、デザインだけでなく、素材の開発にも余念がない。そんな中、発表されるたびに大きな注目を集める日本限定モデルに選んだのも、特別感のある色だ。



**Classic Fusion
 Chronograph Titanium
 Deep Blue**

[クラシック・フュージョン クロノグラフ チタニウム ディープブルー]

ブランド創業当初のクラシックなスタイルを“フュージョン”で再解釈し、モダンなデザインを融合した人気コレクション。シンプルな2カウンターダイヤルに、日本限定仕様のブルーのグラデーションダイヤルがマッチ。ケース径45mm、自動巻き、チタンケース、ブルーヴィンテージアリアゲーター×ブラックラバーストラップ、5気圧防水。116万円(ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)

Information

右ページで紹介した“ベルルッティシリーズ”は、下記のウブロブティックのみで先行販売。左ページの日本限定のモデルも取り扱いあり。是非お近くのショップで手に取って試してみたいかがあるだろうか。
 ウブロブティック銀座 ☎03-3569-3600
 ウブロブティック大阪 ☎06-6121-4531
 ウブロブティック京都 ☎075-533-2711
 ウブロブティック伊勢丹新宿店 (6/19オープン)
 ☎03-3352-1111



**Spirit of Big Bang
 Titanium
 White Diamonds**

[スピリット オブ ビッグ・バン
 チタニウム ホワイト ダイヤモンド]

ブランドで今最も注目を集めるトノウ型ケースに、ベゼルには156個のダイヤを2連でセッティング。異素材を融合したケースやスケルトンダイヤル、ストラップには白をあしらひ、ラグジュアリー感を醸し出す。ケースサイズ45mm、自動巻き、チタンケース、ホワイトアリアゲーター×ブラックラバーストラップ、10気圧防水。311万円(ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)

**Big Bang Unico
 Black & White**

[ビッグ・バン ユニコ ブラック&ホワイト]

ブランドアイコンの“ビッグ・バン”誕生10周年を祝い、自社ムーブメント“ユニコ”を搭載した日本限定モデル。通常、裏面にあるクロノグラフ機構を前面に移し、ホワイトベースにブラックがその精緻を際立たせる。ケース径45mm、自動巻き、チタンケース、ホワイトアリアゲーター×ブラックラバーストラップ、10気圧防水。204万円(ウブロ/LVMH ウォッチ・ジュエリー ジャパン ウブロ)

色

の意味は、その時代や文化を反映する。たとえばレインボーカラーであれば、LGBTのシンボルとなり、現代における自由や解放、多様性を象徴する。そして〈ウブロ〉が日本限定モデルにブルーとホワイトを選んだのも、極めて慧眼といえるだろう。

古来日本において、ブルーは粋や伊達の色とされてきた。それは日常に根ざした藍であり、北斎や広重のジャパブルーは世界を魅了した。一方、ホワイトは清潔や無垢を伴う神聖な色でもある。白木や白装束など宗教祭祀に用いられ、なにものにも染まらない、常に磨き上げる精神性とも結びついている。

こうした色を与えられた時計は、クロノグラフ、トノウ型ケース、自社ムーブメントといった、それぞれの異なる個性に日本らしい輝きを纏う。世界のファンも羨む美しい限定仕様であり、この国でしか手に入れないのはやはり特別。まさに〈ウブロ〉と日本が築いてきた深い信頼関係と互いの文化への理解から生まれた、“アート・オブ・フュージョン”なのだ。

GUCCI

お洒落感の高さで選ぶなら〈グッチ〉。
一目置かれるジャケット姿は
アイコン的なトートとともに。

ジャケットの装いは、ひとつ間違ふとまわりと似たり寄ったりな印象になりがち。その中でまわりの印象に残る装いを狙うなら、バッグをチェンジするのが一番の近道に。アイコン的な意匠を満載した〈グッチ〉のトートなら、頭ひとつ抜きんでた装いが楽しめそうだ。

写真=正重智生 スタイリング=中川原 寛 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Syoju(BOIL) styling: Kan Nakagawara(CaNN)
text: Takami Endo composition: Keiko Oshima

出

会った人の記憶に、不思議と残る。そういう人のことを思い返すと、自分を特徴づける

持ち物や着こなしで自分らしさを表現していることが多い。要はそうした行為によって自分自身をアイコン化し、印象的なキャラクターを演出しているわけだ。

そんな自己演出効果が期待できそうなのが、このトートバッグ。フロントにはウェブストライプが走り、その最上部には“インターロッキングG”と呼ばれるディテールが存在感を放っている。これだけ〈グッチ〉を象徴する意匠が満載されていれば、このバッグ自体が記憶に残るアイコン的な存在に。それでいてトートのイメージをいい意味で裏切る品格を持ち合わせているので、ジャケットスタイルの気分転換を図るにもうってつけだろう。もちろん、これでジャケットの着こなしに新鮮さを加えれば、出会った人の記憶にも残るに違いない。ちなみに、バッグ自体は2WAY仕様で肩掛けも可能。カジュアルな装いでも、一目置かれる着こなしを演出してくれそうだ。

Large Tote Bag

[ラージトートバッグ]

ウェブストライプを走らせた上品な縦長フォルムも、〈グッチ〉を象徴するデザイン。上質なレザーでボディにトリミングをきかせ、コットンキャンバスにはエイジング加工をさりげなく施した。W41×H44×D3cm。バッグ22万円、ジャケット48万円、ベスト16万円、シャツ6万8000円、ネクタイ2万4000円、サングラス4万5000円(以上グッチ/グッチ ジャパン カスタマーサービス)

ORIS

時を経ても美しい〈オリス〉“ダイバーズ65”。

クラシックな夏スタイルには
味なダイバーズがよく似合う。

リゾート感あふれるクラシックなジャケット姿は大人の嗜み。そんな姿でコロニアル風のバーで1杯というのも風情があっていい。そんなときは、時計もヴィンテージ感漂うものが粋な雰囲気作りにひと役買ってくれる。お誂え向きは〈オリス〉“ダイバーズ65”。味があって力の抜けた佇まいがなんとともたまらない。

写真=正重智生 スタイリング=中川真夏 文=八木悠太 構成=大嶋慧子
photo: Tomoo Shigemoto (POLL) styling: Kaori Nakagawa (CaNN) text: Yuta Yagi composition: Keiko Oshima

Oris Divers Sixty-Five

【オリス ダイバーズ65】

右は、海の青緑色を想起させるディーブグリーンダイヤルの新作。逆回転防止ベゼルの外周には、ブロンズをあしらう。左は、ブロンズとステンレススチールでハイカラーに見せた新作。ブロンズのインデックスがレトロ感を誘い、ともにインデックスと針にスーパーラジウムが施されていて、暗闇での視認性を高めている。ケース径40mm、自動巻き、SSケース、レザーストラップ。右:22万2000円、左:23万4000円(以上オリス/オリスジャパン)。ジャケット31万円、Tシャツ3万1000円、水玉のポロケットチーフ1万5000円(以上タンヒル)。その他はスタイリスト私物。

時を超えても色褪せない
レトロな味わいが魅力のダイバーズ。

ブランド初のダイバーズウォッチが登場したのが1965年。そして当時の見た目そのままに、現代の性能や素材使いで復刻させたのが、この“ダイバーズ65”。大きく湾曲したドーム型風防や、経年変化が楽しめるブロンズ素材のベゼルと味なレザーストラップを備え、変わることもない価値を楽しめるのが魅力。こんな時計なら、Tシャツで過ごす休日はもちろんクラシックな大人の装いにも味わいを添えてくれるはず。長く付き合えるのはこんな時計かもしれない。



ドーム型風防には耐傷性のあるサファイアクリスタルを用いて、クリアな視認性を確保。内側には無反射コーティングを施しているため、水中でもしっかりと時刻を把握できる

Information

国内初のオリスブティックが6/22(土)に銀座並木通りにグランドオープン。フラッグシップシリーズの“ビッグクラウン”コレクションをはじめ、今回紹介した“ダイバーズ65”コレクション等、国内最大級の品揃えに。また、6/20日(木)~7/31(水)まで、オリスブティック及び全国のオリス正規販売店にて、〈オリス〉の高性能ダイバーズウォッチコレクション“アクイス”全商品を対象に、オリスアクイスフェアを開催。海やアウトドアで活躍する夏に向けて、好みのダイバーズウォッチをこの機会に見つけてみては？

④東京都中央区銀座 4-3-14 和光オリスビル 1F ☎03-6260-6876

POLICE

“透けメタル”が夏気分を誘う(ポリス)の新作。
涼しげリッチなサングラスは
リゾートでこそ本領発揮。

そろそろバカンスの準備をはじめたい時季。行き先が南国リゾートならサングラスも一新。気分を新たにしたい。(ポリス)の新作はクリアフレームからメタルが透けるデザインで、今季らしいトレンド感がある。型は極めてベーシック。爽快感を楽しめる一方大人らしさを損なわない。

写真=池田佳史 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo: Yoshifumi Ikeda(BOIL) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

BLACK



GRAY



CRYSTAL



MARK 3

[マーク3]

クラシックでクセのないポストンシェイプだから大人らしい印象をしっかりキープ。もちろん顔馴染みのよさもポイント。テンプルには弾力性をもたせたメタルをあしらひ、優しい装着感に。また、モダンと呼ばれるテンプルエンドにはフロントと同じ素材を採用。肌当たりの優しい仕上がりにした。ブランドロゴもここにさりげなく施されている。各2万1000円(以上ポリス/ポリス トウキョウ)

日本人に嬉しい
アジアフィット



海外ブランドでは珍しいノーズパッド付きのアジアフィットが嬉しい。メガネのようにズレにくく快適なかけ心地をもたらす

HAVANA



旅

先によって選ぶ服が変わるように、それに合わせたシューズやバッグなども変わるもの。もちろんサングラスも然り。たとえばこの夏、南国リゾートへ行く予定があるなら、一体どんなサングラスを選んだらよいのだろう。非日常を楽しみたいならカラーフレームのもの。プールサイドで清

涼感を楽しみたいなら、選ぶフレームはクリアタイプ。リッチな雰囲気作りには、日差しを受けて輝くメタルフレームあたりもいいかもしれない。

では、ご覧の(ポリス)の新作はどうだろう。透け感のあるフレームは、とにかく今季らしいもの。目が透けて見えるライトカラーレンズもとても涼しげで、南国

ならではの開放感を味わうにはうってつけではないだろうか。しかも、フロントの枠の中にメタルフレームが埋めこまれていて、見る角度によってそれがキラリと光る。そんな仕掛けが、サングラス姿をひと味違う印象にしてくれる。これさえあれば、リゾートでも街でも“一目置かれる”お洒落が楽しめるはずだ。

Information



渋谷の(ポリス)の旗艦店には、6月公開予定の映画「メン・イン・ブラック: インターナショナル」オフィシャルサングラスがお目見え。3500本の数量限定で、5月下旬より全国の眼鏡店で発売予定。

For Your Ultimate Time on Board!

FIRST CLASS AMENITY*

雲の上の時間を快適にしてくれる、とっておきのアイテム。

ファーストクラスでは機内で過ごすための準備は必要ない。機内用のウエアからスキンケアまで、すべてが揃っているから。今回は、各社が工夫を凝らしたアメニティポーチの中身をご紹介します。

文=たかせ藍沙 text: Aisha Takase

搭

乗アナウンスを待つファーストクラスラウンジでは、シワひとつないスーツや、ハイヒール姿の搭乗客を見かけることが少なくない。ロングフライトには窮屈そう？だが、そんなことを気にする必要はない。ファーストクラスの機内には、くつろぐためのウエアやスリッパがあり、アイマスクや歯ブラシ、スキンケア製品など、必

要なものはすべて用意されているから。なかでも各社が力を入れているのが機内で配られるアメニティ。高級ブランドとコラボするなど、オリジナルデザインのポーチや高級コスメといった、ほかでは手に入らないアイテムが揃う。お気に入りのアメニティをもらうために次のフライトの航空会社を選ぶというのも、旅の楽しみのひとつとしておすすめしたい。



ANA (All Nippon Airways) 【全日本空輸】

今年3月から新デザインとなったポーチは、英国の老舗鞆ブランド〈グローブ・トロッター〉とのコラボ。中身は資生堂の〈ザ・ギンザ〉で、高級美容液エッセンスエンパワリングも入っている。



Lufthansa 【ルフトハンザドイツ航空】

ドイツの〈ウィンザー〉のポーチに、スイスの〈ラ・プレリー〉の高級コスメ。女性用の白いポーチはストラップを取り外しできるデザインとなっている。このアメニティは英国の業界専門誌の読者投票で1位に選ばれた。



Air France 【エールフランス航空】

ポーチは同社のシンボルである、翼のあるヒッポカンボス(海馬)がデザインされているエレガントなオリジナル。その中には、パリの高級エステサロン〈カリタ〉のフェイシャル、ボディケア製品一式が揃う。



JAL (Japan Airlines) 【日本航空】

イタリア高級ブランド〈エトロ〉が航空会社とはじめてコラボしたポーチは、往路と復路で異なるデザインで、コスメも〈エトロ〉オリジナル。日本到着便には「めぐりズム 蒸気でホットアイマスク」が入っている。



British Airways

【ブリティッシュ・エアウェイズ】

ポーチと機内用ウエアは、ともに英国の高級ファッションブランド〈テンバリー・ロンドン〉とのコラボ。コスメは英国を代表するサブブランド〈エレミス〉で、高級ライン「プロコラジェン」の保湿クリームも。



SWISS

【スイス インターナショナル エアラインズ】

スイスを代表するブランド〈パリー〉のポーチに、同じくスイスの高級ブランド〈ラ・プレリー〉のコスメ。目元の乾燥を防ぐ高級クリーム「スキンキャビア ラックス アイクリーム」も入っている。



Etihad Airways

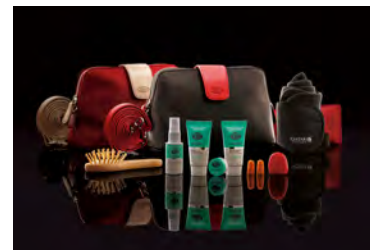
【エティハド航空】

アラブ首長国連邦のアブダビを拠点とする〈エティハド航空〉。アメニティはイタリア職人が手掛ける老舗ブランド〈アクア デイバルマ〉のポーチとコスメ。機内シャワールームのシャンプーなども同ブランドの製品。

Qatar Airways

【カタール航空】

ミラノの老舗バッグメーカー〈ブリックス〉のポーチに、イタリア貴族が手掛けるカステッロモンテヴィピアーノ ヴェッキオ社のコスメ。ポーチにはストラップを付けてバッグとしても使うことができる。



American Airlines

【アメリカン航空】

ロサンゼルスレザーブランド〈ディズ イズ グラウンド〉の機能的なポーチに、シンガポールの〈アライズ オブスキン〉のコスメ。コード類を束ねる結束ホルダーや、両ブランド製品の割引券も入っている。



QANTAS

【カンタス航空】

オーストラリアのファッションブランド〈マーティン・グラント〉のポーチに、同国の自然派ブランド〈オーラ・スバリチュアルズ〉の化学物質不使用のコスメ。アイマスクは顔にフィットする立体構造仕様。

ANA 全日本空輸
JAL 日本航空
Air France エールフランス航空
Lufthansa ルフトハンザドイツ航空
Etihad Airways エティハド航空
Qatar Airways カタール航空
QANTAS カンタス航空
SWISS スイス インターナショナル エアラインズ
British Airways ブリティッシュ・エアウェイズ
American Airlines アメリカン航空

時を忘れてもお洒落は忘れず。

ビーチバカンスには 心が喜ぶアイテムを。

心地よい潮風に癒されながら、時を忘れてくつろぐ夏のビーチバカンス。その清々しさは、一年の中でもこの時季にしか味わえない。そんなかけがえない時間だからこそ、ファッションもプレミアムな気分になれるものを。上質で最高のビーチアイテムが、心が弾むバカンスへと誘ってくれる。

写真=野口貴司 スタイルング=中川原 寛 ヘア&メイク=松本 恵 文=遠藤 匠 構成=大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN)
hair&make-up: Megumi Matsumoto(es*QUISSE) text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

HERMÈS

海と一体になれる水着で
心の底から夏を楽しむ。

サーフィンとは波との一体感が味わえるが、海とシンクロする感覚はビーチでも体験できる。その入り口となるのが〈エルメス〉のスイムショーツ。メゾンを象徴する“H”モチーフでモザイク柄を描いたテキスタイルは、パリの石畳のようであり、刻々と表情を変える海原のようでもある。ギリシャの避暑地・キクラデス諸島周辺のエーゲ海をイメージした配色との相乗効果で、波打ち際にずっと溶けこめる。海の一部になったような感覚は、すこぶる爽快だ。

大海原のようなモザイク柄に〈エルメス〉の“H”がちりばめられていることは、わかる人にしかわからない。そのさりげなさに加え、ひとつのアートピースのようなグラフィックがセンスの違いを印象づけるポイントに。デザインは、気楽に穿けるボクサーショーツタイプ。トップを着れば、そのままビーチタウンにも繰り出せる。スイムショーツ6万9000円、サンダル5万6000円、ブレスレット5万5000円、ビーチタオル2万9000円(以上エルメス/エルメスジャパン)

ビーチが似合う男の背中に 海色使いの“モノグラム”を。

海辺の景色と馴染みがいいマリンカラーを彷彿とさせるデニムのインディゴ色。そのカジュアルで潮風香るような素材に“モノグラム”をちりばめたのが、〈ルイ・ヴィトン〉のバックパック。デニムといってもプリントではなく、織りで柄を描いた贅沢なもの。それでいて、クライマーが持つバッグに着想を得たデザインは、大きな開口部から荷物を詰めこめる設計が持ち味。ビーチ映えて、使い勝手も良好。まさに夏のバカンスの相棒にぴったりなのでは？

ドロースtringsを備えたトップの開口部から内部にアクセスする設計。側面には大型のジップポケット付き。金具はヴィンテージ風のゴールドカラー。革製のトリミングも海に映える配色。W31×H42×D21cm。バックパック31万円、バックパックに掛けたスカーフ6万円、Tシャツ6万9000円、パンツ16万8000円、サングラス7万円、ラバーストラップの腕時計59万円、ネックレス5万4000円(以上ルイ・ヴィトン/ルイ・ヴィトンクライアントサービス)

LOUIS VUITTON

LORO PIANA

バカンス慣れしているかは バッグを見ればわかる!?

ビーチでくつろぐひとときは、バカンスのハイライト。なぜならそこは、心の底から優雅な気分を満喫できる場所だから。そんな気分を台ナシにしないよう、持ち物にも手を抜かないのが大人の流儀。だからこそ、必携品を詰めこむバッグも〈ロロ・ピアーナ〉に。ストライプ柄が目を引くこのバッグは、上質なコットンリネン仕立て。しかも、濡れた水着と着替えを個別に収納できる防水ポーチも付属している。使いこなせば、リゾート慣れして見えること請け合い。

サイズのバリエーションが豊富なのも同社のトートバッグの強み。撥水と防汚加工が施されているので、水際や砂浜での使い勝手も良好。ウェット用、ドライ用、小物用の3つの防水ポーチが付属。右:バッグW40×H39×D36cm。22万円
左:バッグW47×H29×D17cm。17万6000円、シューズ8万1000円、シャツ8万5000円(以上ロロ・ピアーナ/ロロ・ピアーナ銀座並木通り本店)、その他はスタイリスト私物

LOEWE

天然素材の心地よさが
渚の爽快感の追い風に。

波打ち際に佇んだときにカラダを包む、暑い日差しと爽やかな海風。その心地よさを損ねないよう、羽織りものにもこだわりたい。この夏のおすすめは、〈ロエベ〉のフード付きアウター。ヘンブとリネンを混紡した風合い豊かなボディは、肌当たりが爽やかで着心地も軽快。左右の身頃のストライプ柄が異なるという、ちょっとした遊び感覚も心を自由にしてくれる。その癒し系の着心地とラフな見た目で、ビーチでの開放感もいっそう高まりそうだ。

スペインのイビザ島の伝説のプティックとして知られる“パウラズ イビザ”とタグを組んだコレクションの最新作。ゆったりとした身頃とフードを採用する一方で、着丈はブルゾン風の短丈。リラックス感がありつつも洗練された印象で着こなせる。ジャケット15万円、ショーツ6万4000円、ブランケット参考商品(以上ロエベ/ロエベ ジャパン カスタマーサービス)



HANKYU MEN'S OSAKA

〈阪急メンズ大阪〉が提案する

地球にも人にも優しい お洒落の新基準とは？

自然を身近に感じたいと願う都市生活者が増え、世の中の的にもサステナブル＝持続可能という考え方が重要視されるようになってきた。〈阪急メンズ大阪〉では今、そんなマインドを後押しするキャンペーンを展開中。人はもちろん自然にも優しく、エシカルであることが、これからのお洒落の確実なスタンダードになる。

写真＝野口貴司 スタイリング＝中川原 寛 ヘア&メイク＝TOYO 文＝遠藤 匠 構成＝大嶋慧子
photo: Takashi Noguchi styling: Kan Nakagawara(CaNN) hair&make-up: TOYO
text: Takumi Endo composition: Keiko Oshima

好きなものを手に入れたら、 それが社会貢献になる時代。

環境保護なんていうと大げさに聞こえるが、きっと現代の都市生活者の誰もが、未来に向けて持続可能な社会を目指したいと願っているはず。では、そんな思いを手軽に表現できるものとは？ おそらくそのひとつが、毎日のように身に纏うファッションではないだろうか。“ネイチャー・イン・ザ・シティ”という年間テーマを掲げた〈阪急うめだ本店〉と〈阪急メンズ大阪〉には、そんなことに気づかせてくれる企画が目白押し。たとえば、現在展開中の“グッド・フォー・グリーン”というキャンペーンがそれ。最近ではサステナブルなモノ作りに取り組むハイブランドも増えており、そうしたエシカルなファッションアイテムを発見できる面白さがある。

さらにここだけの限定企画として製品化した数量限定アイテムも展開。〈阪急メンズ大阪〉で楽しみながら買い物をしていたら、それが環境に優しいアイテムだった。そんなふうな、エシカルなお洒落が身近に感じられそうだ。

02 BAM

[バム]

〈阪急メンズ大阪〉のキュレーション型ストア“ガラージュD.エディット”で展開中のネクタイブランド(バム)。このブランドとの限定企画として、オリジナルのボウタイを製作。今回の企画に賛同し、〈オールモストブラック〉等、ここで展開中のブランドより無償で提供された残布を使用。いずれも世界でひとつしかないデザインで、45本だけの数量限定品という希少価値の高さも魅力。ギフトとしても喜ばれそうだ。



残布のプリントを生かしたりメイクによって、従来のボウタイにはない柄表現が可能に。左右で柄が異なるデザインやポップな配色が魅力。1万6500円(バム/阪急メンズ大阪)

01 LORO PIANA

[ロロ・ピアーナ]

環境に配慮した服を数多く展開する〈阪急メンズ大阪〉。このコートも然り。ボディには〈ロロ・ピアーナ〉独自の技術を駆使した“グリーン・テクノロジー”を使用。これは、スーパー-150'sメリノウールに植物原料から製造したナイロン糸を融合した新素材。お堅いトレンチコートとは違い、着心地はしなやか。コート36万6000円、ニット13万9000円、パンツ(参考色)6万8000円、バッグ36万6000円(以上ロロ・ピアーナ/阪急メンズ大阪)、その他はスタイリスト私物



縦糸のバイオベースナイロン糸は、化石燃料ではなく、トウモロコシ由来の天然ポリマーが原料。タスマニア産のメリノウールと組み合わせ、優しい風合いに仕上げた

Information

“GOOD for GREEN”キャンペーンを開催中。

“モノを作るとき、売るとき、使うとき、自然環境や社会環境のことを考えて、私たちにできることが、きっとあるはず。未来のために、まずは小さなアクションでも。みんなで、一歩ずつ、取り組んでいきましょう”。そんな想いをこめて取り組む“GOOD for GREEN”キャンペーンは、〈阪急うめだ本店〉と〈阪急メンズ大阪〉で6/4(火)まで開催中。ファッションだけでなく、五感を通じてエシカルで新しいライフスタイルの魅力を堪能できる。



ノベルティはフェアトレード製品。

ノベルティのフェアトレード雑貨(ラブ&センス)のアクセサリは、WFTO(世界フェアトレード機関)に加盟するタイの女性グループのハンドメイド。6/1(土)、6/2(日)〈阪急メンズ大阪〉で対象商品をお買い上げのお客様に各日、先着順でプレゼント。

Have a Deep Experience!

GREAT EXPLORE*

01 街の運河をまわり 今までと違う地元を体験。



ロングテールボートに乗り、細い支流を進む。川沿いの民家へ立ち寄り、住民との交流も。観光とは違う地元の暮らしに触れられる。

ローカルスタッフによる筋書きのないツアーが面白い。

その土地に詳しいのは、ガイドブックよりもなによりそこに住む人。ローカルが超穴場を案内する“インサイダーツアー”では、ルートに決まりはなく、参加者の興味のままに進むことも。今回はタイでおすすめのホテル主催ツアーを紹介。

文=古関千恵子 text: Chieko Koseki

首

都バンコクの暮らしの大動脈、チャオプラヤ川。エメラルド寺院訪問やディナークルーズがポピュラーだが、〈アナタラ・バンコク・リバーサイド・リゾート〉の“クロン・グル・ツアー”はひと味違う。タイ語で“クロン”という迷路のような支流を、昔ながらのロングテールボートに乗って分け入っていく。案内をするのは“グル”と呼ばれるこの界隈の達人だ。今回、探検するのはクロン・ダオ・カノンとクロン・バン・クン・ティエン。基本ルートは、運河沿いに連なる伝統的な木造家屋や、アユタヤ時代に造られた寺院、築100年を超える王族の屋敷などを巡り、アーティストハウ

スでランチをとる。面白いのが、グルが川沿いで買ったパンで川魚に餌づけをしたり、民家を訪問して暮らしぶりを案内したり、思いつくままに行動すること。立ち寄り寺院も名所ではなく、日常的に地元の人々が参拝するようなところばかり。知る人ぞ知るバンコクの素顔が見られる。1人1回5500バーツ(税別)。

DATA

ANANTARA RIVERSIDE BANGKOK RESORT
アナタラ・バンコク・リバーサイド・リゾート

257/1-3 Charoenakorn Road,

Thonburi, Bangkok, Thailand

+66-2-476-0022

<https://www.anantara.com/ja/riverside-bangkok>

ほかにもこんなツアーがある!



ラオスやミャンマーとの国境近い〈アナタラ・ゴールデン・トライアングル・エレファント・キャンプ&リゾート〉では、象の保護施設を併設。そこに暮らす象とマホート(象使い)と一緒に散歩を楽しむ。象はジャングルや川辺を気ままに歩きながら、水浴びをし、新芽を美味しくうに食べ、仲間とたわむれ……。象の自然な姿を間近で見られる。A: 国境の川を望むヒルトップサラ B: 水浴びを楽しむ象の親子 C: 先住民のアートで飾られた客室のテラスから、隣国の山並みを望む D: 荘厳な趣の“エレファント・バー”

02 湾岸をスピードボートで 巡りながら癒される。

お

洒落なデザインホテル(W)は、ホテルごとに“Wインサイダーツアー”を開催。タイのサムイ島(Wコーサムイ)では、スタッフのケントさんイチ押し“タイの湾岸を探検するWスピードボート体験”がおすすめ。ビーチから流線形が美しいスピードボートに乗船、まずはサンゴ礁が広がるワオ島でスノーケリング。そしてハイライトのアントン海洋国立公園へ。“タレーナイ(内陸の海)”と呼ばれる湖やエメラルド湖の周辺をクルーズし、風光明媚な景色を堪能。ランチは、海洋ジプシーの村で伝統的なメニュー、または(Wコーサムイ)のレストランチームによるピクニックランチを。午後は、隠れ家ビーチで昼寝や散策など、のんびりと過ごす。オプションで、カヤックをレンタルすることもできる。サムイ島からの1日ツアーで人気のアントン海洋国立公園を、混雑知らずの貸し切り状態で満喫できるプラン。1回3万9000バーツ(最大10名、8時間)。

DATA

W KOH SAMUI

Wコーサムイ

4/1 Moo 1 Tambol Maenam,

Surat Thani, Koh Samui, 84330 Thailand

+66-77-915-999

<https://www.marriott.co.jp/hotels/travel/usmwh-w-koh-samui/>

スマートなデザインのスピードボートで、サムイ島沖に点在する島々へ。海辺でのランチもポップでお洒落に演出してくれる!



ほかにもこんなツアーがある!



オーストラリアの(Wブリスベン)で“タンガルーマアイランドリゾートへのクルーズ旅行”はいかが? ブリスベンから船で約75分のモートン島にある、自然豊かなタンガルーマアイランドリゾートへ。四輪バギーで疾走し、沈船スポットでシュノーケリングなど楽しんだ後は、シーフードランチを満喫。浜辺に訪れる野生のイルカとの触れ合いも。A: モートン島タンガルーマアイランドリゾート B: 透明度の高い海でシュノーケリング C: 一番人気は、日没時に現れる野生のイルカなどへの餌づけ D: 砂を巻き上げて4輪バギーで風を切る!

Stylish Room with a Fine View! URBAN OASIS*

〈ハルミフラッグ〉には憧れのライフスタイルがある。

都心の一等地にありながら、東京湾を堪能できる分譲マンション〈ハルミフラッグ〉。このスペシャルな空間に『Safari』の世界観をテーマにした部屋が登場する。青い海と空が望める理想のライフスタイルがここにある。

写真=今江寿之 スタyling=浅井秀規 ヘア&メイク=城生なみ子 文=木内アキ
photo: Toshiyuki Imae styling: Hidenori Asai
hair&make-up: Namiko Shiroo(+nine) text: Aki Kiuchi



close up!



バルコニーとの段差をなくして内外を一体化。

リビングとバルコニーがスムーズにつながる段差のないフラットな空間。休日はテーブルを半分だけ外に出し、海風を感じながらゆったりとコーヒー、なんて贅沢も。

写真上 / 男: シャツ2万5000円(フランク & アイリーン / サザビーリーグ)、デニムパンツ4万円(リブレイ / ファッションボックスジャパン) 女: ワンピース2万4000円(デミリー / サザビーリーグ)
写真下 / 男: カーディガン2万5000円、カットソー1万4000円、ショーツ1万5000円(以上ベアフット / ドリームズ / サザビーリーグ) 女: ニット2万4000円(デミリー / サザビーリーグ)、ショーツ2万8000円(ユニオンランチ / サザビーリーグ)

A : 天井の高いリビングはオープンな造り。足を伸ばして寛げるカウチ&ソファはオーダー家具で人気の(エリアトウキョウ)に『Safari』編集長が別注をかけたスペシャルデザイン。こだわりは背もたれの柄を一つひとつ変えたファブリック。壁には波を思わせるアートも **B** : 淡グレーの壁に、ホワイトのシーザーストーンが映えるキッチンを使い勝手も優秀。継ぎ目のないカウンターのはたは、調理はもちろん掃除も楽ちん。足元の前後には鍋などの調理器具がきれいに収まる収納も完備 **C** : ダブルベッドの横にはカウチスペース。眠りにつく前の読書などに最適。休日ならコーヒー&トレイを持ちこんで、ここで朝食を摂るのもいい



まるで海にいるように
落ち着くリビング



遊びのある2ブロックの
ベッドルーム



料理がもっと楽しくなる
広々としたキッチン

都 心の華やかさを楽しみながら、一方で家に帰ればいつでも海
の存在を感じられる。そんな
ライフスタイルが東京で送れるとしたら？ こんな贅沢はないだろう。しかし2022年、それは実現する。それが、晴海五丁目に完成予定の〈ハルミフラッグ〉だ。3方向が海に囲まれた分譲マンション。目の前に広がるレインボーブリッジや、湾岸エリア、東京タワーなどを見渡せる、そんな様々な眺望が魅力。
晴海埠頭の南端という立地で、海も空も光もたっぷり。心地よさを堪能するべく造られた天井の高い室内は、窓を開けるとリビングとバルコニーが一体となる

開放的な作り。さらに船窓を思わせる間接照明など、海のエッセンスがあちこちにちりばめられているのも心弾むはず。
海を愛する人にふさわしいといえるこのマンション。なかでも注目なのが、カルフォルニアのカルチャーやファッションを紹介するライフスタイル誌『Safari』の世界観をテーマにした部屋だ。編集長がセレクトした家具と空間がコラボレーションし、“海沿いに住む理想のアーバンライフ”を作り上げた。都会にいながら、外部の視線を気にしなくていいプライベート感。そして海と空を堪能できるエクスクルーシブな眺望。ほら、想像しただけでも2022年の完成が待ちきれないはず。

〈ハルミフラッグ〉とは？



〈ハルミフラッグ〉は、晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業によって誕生する都市開発プロジェクト。官と民との連携によって誕生する街は、住宅だけでなく、商業施設や保育施設、シニア住宅などもまろごと整備。さらに、小中学校・広大な公園・マルチモビリティステーションが併設される。まさにALL IN TOWN。分譲街区は4145戸。多様なライフスタイルの人々が心地よく暮らせるよう、提供するルームバリエーションは1260種類というこだわりよう。銀座から直線約2.5km、東京駅から直線約3.3kmという都心近接地。3方向を海に囲まれた晴海埠頭の南端という特性を生かし、東京湾に臨む圧巻の眺望を満喫することができる。

※掲載の写真は〈ハルミフラッグ〉、レファレンスルーム95typeを撮影(2019年3月)したものです。家具・調度品などは販売価格に含まれません。一部オプション仕様が含まれています。窓外の眺望は現地(SEA VILLAGE A棟)16階相当の高さ(約52m)から南東方向を撮影(2018年3月)した眺望写真を合成したもので実際とは異なります。

Impressing with its Sharper Contours!

SUV COUPÉ*

時

が経てば常識が変わる。先日、スーパーのドリンク売り場でそんなことを感じた。目の前に並ぶペットボトルに入った“水”の種類の数。国内外から運ばれた色とりどりのラベルがキレイに並べられている。しかもそこには最近流行りの炭酸水も。少なくとも'80年代にこんな光景を拝むことはなかったはずだ……。

これをクルマ業界に置き換えると、ペットボトルの水はSUVだと思う。20世紀ではレアな存在も今日ではデフォルト。街の自販機で目にする水のごとく、道路を走るSUVの割合は高い。そしてその中の嗜好品となる炭酸水は、ここでスポットを当てるSUVクーペ。ペットボトルの水(=SUV)でことは足りるが、あえて選ばせていただくなら炭酸水(=SUVクーペ)といった感じだ。

というつもりで自動車業界を見渡すと、SUVクーペが増えているのに気づく。かつてキワモノ的に扱われていた〈ビー・エム・ダブリュー〉X6は弟分にX4を持ったり、ライバルの〈メルセデス・ベンツ〉からもGLCクーペやGLEクーペがラインナップされている。

そして今回、ついに〈ボルシェ〉までもがSUVクーペなるものを登場させるとアナウンスした。その名はカイエンクーペ。今年の上海モーターショーで発表されたモデルだ。右上の写真をご覧ください。リアピラーの角度はかなり寝ていてスタイリングがシュッとしているのがよくわかる。まあ、そもそもスポーティなイメージのカイエンですから違和感なくできていますがね。思わず「前からあったっけ?」と言いたくなるような自然な仕上がりである。

さらにいえば、前述した X4も昨年後半にフルモデルチェンジ。第2世代へと突入した。先代ではちょっと遠慮がちだったスタイリングが今回は堂々としたものとなり、迫力を数倍増している。流行りの大型キドニーグリルと合わせ、存在感はものすごい。ちなみに、今年になってX5のフルモデルチェンジも発表。ということは、その派生となるX6の変更も間近。SUVクーペは業界的に増えることはあっても減ることはなさそうだ。

ということで、ペットボトルで普通の水ではなく炭酸水を買う方はSUVクーペを気にとめてみてはどうだろう。嗜好性の強いアナタにぴったりハマるかも。そうそう、レストランでイタリアンを食べるときに炭酸水をオーダーする方も。自動車業界の炭酸水がカーライフをシュワシュワッと気持ちよくしてくれるかも。

美意識の高い人にはSUVクーペがあります。

みなさんから見て、素直にかっこいいと思えるクルマはどれほどあるだろうか? オープンカーやスポーツカーならまだしも、SUVは? 思い当たらない人はこちらをご覧ください。

文=九島事務所 text: Kushima Office

PORSCHE Cayenne Coupé

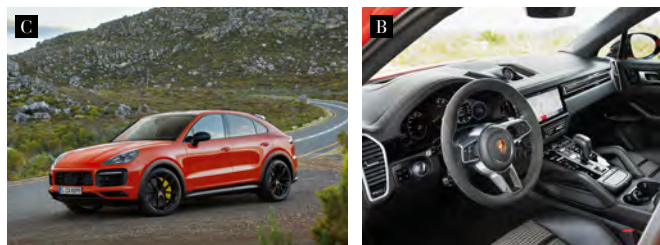
[ボルシェ カイエンクーペ]



エアロダイナミクスがSUVの走りを変える。

今年4月上海モーターショーでワールドプレミアされたカイエンクーペ。日本でも価格が発表され予約注文がはじまった。特徴はスタイリングで、スタンダードボディのカイエンよりも全高は低くなる。新装備「ボルシェ・アクティブ・エアロダイナミクス(PAA)」は、固定式ルーフスポイラーとアダプティブリアスポイラーが接地圧を高めるもの。

A: リアドアより後ろは専用設計された。よってリアはスタンダードボディよりもワイドになり全高も20mm低くなる B: インパネ周りは特に変更はない。5連メーターも存在する C: エンジンは2種類で、3ℓ V6ターボ(340ps)と4ℓ V8ツインターボ(550ps)となる



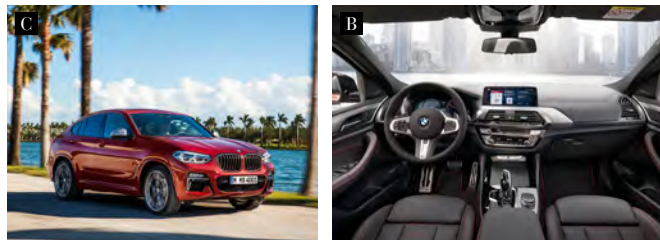
BMW X4

[ビー・エム・ダブリュー X4]

SUVクーペの先駆者は独自の道を歩む。

〈ビー・エム・ダブリュー〉は自社のSUVをSAV(スポーツ・アクティビティ・ビークル)と呼び、SUVクーペをSAC(スポーツ・アクティビティ・クーペ)と名づけている。X4はもちろん後者。昨年ジュネーブショーでお披露目され、9月から日本で発売を開始。ベースとなるのはX3。今回そのモデルチェンジに伴い、X4は2世代めへと進化した。

A: リアスポイラーの役目も持たすデザインのテールゲート。テールランプも新デザインで個性的なリアエンドを飾る B: 高級感を醸し出しながら、スポーティな雰囲気が漂うダッシュボード C: エンジンは2ℓ直4ターボ(252ps)と3ℓ直6ターボ(360ps)が用意される



◎ボルシェ カスタマーケアセンター ☎0120-846-911 BMWカスタマー・インタラクティブ・センター ☎0120-269-437

※掲載商品お問い合わせ先 / P18: クルチアーニ 銀座店 ☎03-3573-6059 P19: ジョルジオ アルマーニ ジャパン ☎03-6274-7070 P27: ダンヒル ☎03-4335-1755

Gastronomic City MACAU*

マカオの最旬レストランで美食に酔いしれる。

マカオといえば、近年はコタイ地区のIR(統合型リゾート)の登場で観光産業の発展が目覚ましい。IRとは、カジノだけでなくホテルやショッピングモール、劇場や国際会議場などがある複合施設のこと。とりわけマカオのIRは、どこもレストランの質が極めて高い。今回はカジノだけではなく美食のマカオの魅力をご紹介します。

取材・文=中村孝則 text: Takanori Nakamura

マカオのグルメといえば、広東料理や福建料理に加え、旧宗主国のポルトガル料理の影響を受けた独自の料理が挙げられる。アジア海洋圏の交通の要所であることから、マラッカなどの交易でマレー系の料理やアフリカ系料理のエッセンスなども取り入れた、ユニークなフレーバーが特徴である。そうしたマカオの伝統的な料理は、今でも旧市街のあちこちのレストランで楽しむことができる。それはそれで魅力的なのだが、筆者が注目するのは、近年、発展著しい埋立地のコタイ地区にあるIRのレストランである。IRとは、日本では単なるカジノだと思える人が多いが、カジノを中心にホテルやショッピングモールや劇場、そしてレストランなどの統合型リゾートのことだ。むしろIRの老舗のラスベガスでは、カジノ以外の売り上げのほうが多いというのが現状。日本でも法整備が着々と進んでいるが、IRはカジノをやる人も存分に楽しめる施設であることを、今一度理解する必要があると思う。観光誘致のキーコンテンツになるというメリットも含めてだ。その意味でマカオのIRのレストランは特筆に値すると思う。どの施設も豊富な資金と深い食文化を背景に、ユニークで質の高いレストランが目白押しだからである。

折しも、今年の3月には“アジアベストレストラン50”の2019年度のアワードが、マカオのIRのウィン・リゾーツで開催されたばかり。これは、マカオ政府観光局がIRのレストランの魅力を発信するために誘致したものであった。今回は、筆者の独断で、3店舗をご紹介しますが、これ以外でも、多種多様なレストランがひしめき合っているので、カジノ以外のIRの魅力を知る、という意味でも是非一度訪れてほしいと思う。日本からは、マカオ航空の直行便のほか、昨年末に香港とマカオを結ぶ海上橋、港珠澳大橋が開通したばかりだから、香港経由のアクセスがしやすいくなっているというのも魅力だ。



取材・文 中村孝則 美食評論家

1964年神奈川県葉山生まれ。ファッションからカルチャー、美食などをテーマに新聞や雑誌、テレビで活動中。主な著書に『名店レシピの巡礼修業』（世界文化社）がある。2013年より「世界ベストレストラン50」の日本評議委員長も務める。さらに、グラナバダーとバルマハムの親善大使に任命されている。



Sichuan Moon

【スーチョワンムーン】

アンドレ・チャンがプロデュースする超モダンな四川料理が味わえる店。

こちらは、アジアを代表するスターシェフ、アンドレ・チャンが、ウィン・パレス内に新たに立ち上げたモダンな四川料理店。アンドレは、フランスの名店で修業を積み、シンガポールのレストランで大成功を取った。だが、その店を閉め、その後の動向が注目されていた。そんな中、新たなクリエイションの舞台の1つがここ。今度は、四川料理をテーマに、彼らしい独自の創作料理を提供している。



A: 四川料理を代表する1つ、サワー・スパイシー・スープをアンドレ風にクリエイションしたひと皿
B: 炭火焼きされたチリ風味のキング・クラブの脚は絶品！ C: こちらもスープの別バージョン
D: “アジアベストレストラン50”やミシュランなどでも高い評価を得ているアンドレ・チャン

DATA

③ Wynn Palace Macau Av. da Nave Desportiva, MO Avenida Da Nave Desportiva Cotai
☎ +853 8889 8889



A: ユニークな形状と風味のアムューズ B: 客席は巨大な鳥かごのような空間の中に設置されている。こちらもザラしいユニークな設計 C: 鳩はマカオ料理の伝統的な食材のひとつだが、繊細な火入れで極上の一品に仕上げている

DATA

③ Morpheus at City of Dreams, Estr. do Istmo, Cotai
☎ + 853-8868-3446

YI [イ]

今マカオで最も注目される中華料理店。

こちらは、昨年オープンしたばかりのホテル、モフィアスの中のモダン中華。このホテルは鬼オザハ・ハディッドが設計したことも話題だが、この店内のデザインもオザハが担当した。その空間で食すこと自体もエンターテイメントだが、料理の数々も繊細かつ創意にあふれていて美味しい。

MIZUMI

【ミズミ】

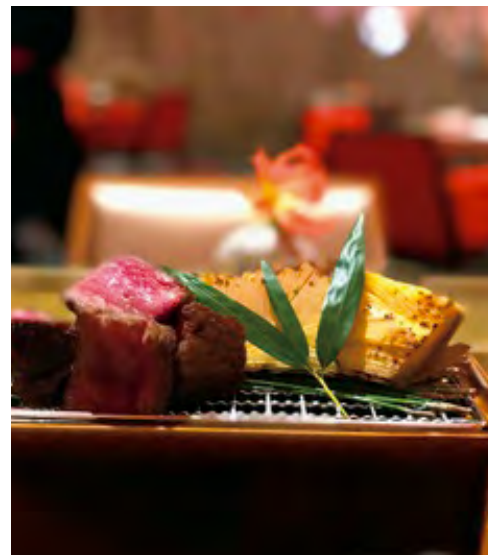
日本から空輸された食材で本格的な日本料理を堪能。

ウィン・リゾーツの中にあるこの店は、テーブル席のほかに寿司カウンターなども配し、豊富なメニューから自由なスタイルで日本料理を楽しめる趣向。マカオにいなながら、質の高い日本料理や日本酒が味わえるのは嬉しい。贅を尽くしたユニークなデザイン空間も楽しい。

DATA

③ Wynn Macau Macau R. Cidade de Sintra, MO Rua Cidade de Sintra NAPE
☎ +853 8986 3663

こちらは和牛の炭火焼き。テーブルに小さな炭台が持ち出され、自分で火入れを調整できる趣向



2019 TOBU WORLD WATCH FAIR

2019年
東武ワールドウォッチフェア
8月22日[木]-27日[火]

東武百貨店 池袋店 8F催事場

営業時間: 午前10時~午後8時 *最終日は午後6時閉場

[第二会場] 6F 8~10番地 時計サロン

営業時間: 午前10時~午後8時

後援: スイス大使館 スイス時計協会FH

[一社] 日本時計輸入協会

協力: **Safari** *Urban* **Safari**

TOBU

池袋 東武

<http://www.tobu-dept.jp>

豊島区西池袋1-1-25 〒171-8512

ナビダイヤル/0570-086-102

通話料はお客様負担となります。

営業時間: 午前10時~午後8時

B2F~3F、6F(3~7番地)、9F・10Fは日曜・祝日を除く毎日午後9時まで営業。

2019 TOBU
WORLD
WATCH
FAIR